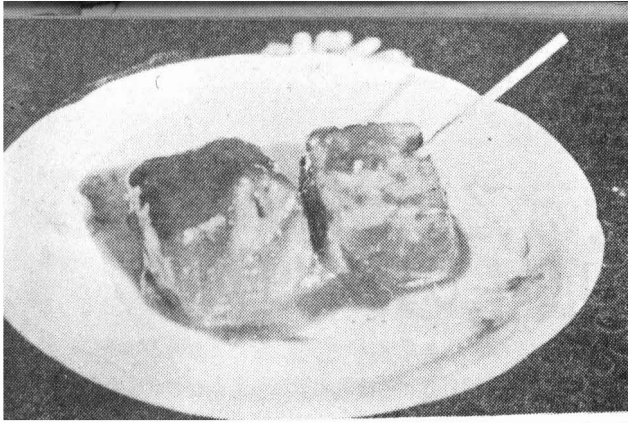


# 琉球大学学術リポジトリ

## 腎臓病と食塩

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 尚, 弘子, Sho, Hiroko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20258">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20258</a>



写真は吉田安郎さんの造つたとうふよう

「とうふよう」は酒のつまみものとして、特に冷酒のつまみものとしては最高のものであると酒徒に賞賛されているが、戦前は酒徒よりは寧ろ婦人の好物として珍重された食品であつたという。

食べ方ははし又は、ようじてそいで舌頭で味わうのが上手な味わい方である。

以上の如く郷土の古典味ゆたかな「とうふよう」は粗

野な材料で最高の味を与える優れた加工品であるが、現今一般には余り知られていない。筆者の知るところでは那覇市壺屋 吉田安郎さんの製造所が一軒あるのみで製造量も極めて僅かであるが、将来農家の副業として取あげて見るべき加工品ではなからうかと思う。

(宮里興信)

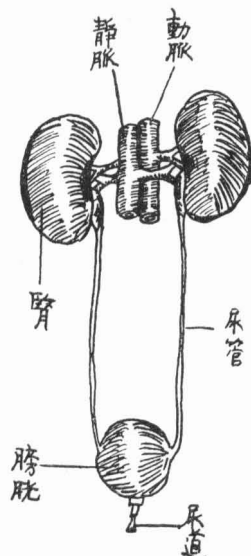
## 1. じん臓の働き

下の図に示しましたそら豆型をした腎臓ではたん白質以外の成分は濾過され、水分や私達の体内の老廃物を排泄する役目がなされます。又、体内に生じた不都合な酸も処理し、私達の血液があまり酸性にならないように血液酸度を一定に保つ働きも致します。

そこで腎臓の病気にかかりますと尿がうまく排泄されず体に水がたまってむくみかたたり、体内の老廃物がうまくとりのぞかれないで有毒な物質がたまったり、又血液中に不都合な酸がのこり、血液を極度な酸性にしたり致します。

2. そこで私達はじん臓病にかかったら食餌の上でどんな注意をしたらよいでしょうか。

## 腎臓病と食塩



腎臓病にも急性腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ、尿毒症等といろいろありまして、病気の種類によって食餌のとり方も大分違って参りますが、一般的な注意だけを述べてみましょう。

1) 刺激物は一切さけましょう。

腎臓病では腎臓を保護していく食餌をとるようにしなければなりません。

2) 食塩の摂取には特に気をつけお医者様の指示によって分量をきめます。普通急性初期の最悪期でむくみのいちじるしい時は無塩又は0.5グラムまでと致します。又中等度の減塩食で2-3グラム位にし長期間の慢性じん臓病の場合には5-8グラムと致します。

3) 水分の摂取にもよく気をつけましょう。

4) ソーダ水や重曹等ナトリウムを含むものはさけます。

5) 植物性食品(穀類、蔬菜類、果実等)を主として用い動物性食品は少量補って栄養の維持を行う程度に致します。

6) 脂肪もなるべく動物性脂肪をさけ植物性のてんぷら油、サラダオイルの類を使用するようにしましょう。

(つづく) (尚弘子)